

公開実用 昭和 59— 93403

No.4 JP59-93403 U (MICRON KIKI Corp.)

① 日本国特許庁 (JP) ② 実用新案出願公開
 ③ 公開実用新案公報 (U) 昭59—93403
 ④ Int. Cl.³ 識別記号 庁内整理番号 ⑤ 公開 昭和59年(1984)6月25日
 A 61 B 5/00 6530—4C
 審査請求 未請求

(全 頁)

各体質判定装置

⑥ 実 願 昭57—186108
 ⑦ 出 願 昭57(1982)12月9日
 ⑧ 考 案 者 遠藤修
 東京都大田区千鳥2丁目9番18

号ミクロン機器株式会社内
 ⑨ 出 願 人 ミクロン機器株式会社
 東京都大田区千鳥2丁目9番18
 号
 ⑩ 代 理 人 弁理士 樺山亨

明 細 書

考案の名称

体質判定装置

実用新案登録請求の範囲

被検者の体質に関する情報を入力する入力装置と、この入力装置により入力された情報から被検者の体質について熱タイプと寒タイプとの判別、実タイプと虚タイプとの判別、燥タイプと湿タイプとの判別を行う体質判定手段と、この体質判定手段の体質判定結果を出力する出力装置とを備えた体質判定装置。

考案の詳細な説明

本考案は薬局等で使用される体質判定装置に関する。

従来、薬局では薬剤師は客に対して種々の質問をして客の体質を判定し、この体質と客の病症とから客に適合する薬品を選定して販売している。しかし客の体質をだいたい4種類のタイプのいずれか1つのタイプに判定していてそれ以上細かく判定することが難しかったので、客に適合する薬



公開実用 昭和59— 93403

品をはっきり選定することが難しく差し障りない
ように選定していた。また医院などでは患者の体
質を簡単に細かく判定できれば診断上便利である。

本考案はこのような事情に鑑み、被検者の体質
を簡単に細かく判定することができる体質判定装
置を提供することを目的とする。

以下図面を参照しながら本考案について実施例
をあげて説明する。

第1図は本考案の一実施例を示す。

この実施例は入出力ポートが付いた中央処理装
置11及びメモリ12よりなるマイクロコンピュ
ータと、表示装置13と、キーボード14よりな
る入力装置と、プリンタ15と、外部記憶装置16
とによって構成される。表示装置13及びプリン
タ15が出力装置として用いられ、表示装置13
は陰極線管表示装置よりなる。中央処理装置11
はメモリ12の一部に記憶しているプログラムに
従って、メモリ12及び外部記憶装置16を使い
ながらキーボード14からの入力信号を処理し表
示装置13及びプリンタ15にデータを表示させ



る。

第2図は上記プログラムを概略的に示すゼネラルフロー図である。電源が投入されると、中央処理装置11はまず初期設定を行ない、4項目の処理の内容を表示して処理項目の番号の入力を指示する。キーボード14で1の番号が入力されると、キーボード14及び表示装置13を使う問診処理により被検者のコード、検査年月日、年令、性別をとり込むと共に被検者の体質を判定する。キーボード14で2の番号が入力されると、被検者のコード、検査年月日、年令、性別、体質を問診リストとして表示装置13に表示させる。キーボード14で3の番号が入力されると、被検者のコード、検査年月日、年令、性別、体質をプリンタ15に記録紙へ記録させて問診リストを作成させる。キーボード14で4の番号が入力されると、所定の終了処理を行なって次の被検者についての処理に備える。

第3図は上記問診処理のルーチンを示し、第4図及び第5図は問診処理ルーチン中の体質判定部



公開実用 昭和59-93403

分を示す。中央処理装置11は第3図に示すようにファイルメモリとして使用する外部記憶装置16をオープンし、表示装置13に入力例を表示して被検者が初めてならば、検査年月日、被検査の年令及び性別を入力し被検者が初めてでなければ被検査コードを入力するように指示させる。初めての被検者の、検査年月日、被検者の年令及び性別がキーボード14で入力されると、被検者コードを新規に設定してキーボード14からの検査年月日、被検者の年令及び性別を取り込む。初めてでない被検者のコードがキーボード14で入力されると、この被検者コードを取り込むと共にその被検者の年令及び性別、検査年月日を外部記憶装置16より読み取る。次に1被検者コード、2検査年月日、3年令、4性別のうち間違いがあればその番号と正しいデータを入力せよという質問を表示装置13に表示させる。キーボード14で間違っているデータの番号と正しいデータが入力されると、間違っているデータを正しいデータに訂正して次のステップに進み、またデータの訂正がな

くて次に進むようにキーボード14より入力が入った時も次のステップに進む。

しかる後に体質判定に移るが、この体質判定は漢方学に基づいて被検者の体質を判定する。概略的には第4図に示すように熱寒テスト、実虚テスト、燥湿テストにより被検者の体質が燥熱実タイプ（便秘タイプともいう）、湿熱実タイプ（血圧タイプともいう）、燥熱虚タイプ（口渴タイプともいう）、湿熱虚タイプ（過敏タイプともいう）、燥寒実タイプ（急病タイプともいう）、湿寒実タイプ（激痛タイプともいう）、燥寒虚タイプ（枯燥タイプともいう）、湿寒虚タイプ（虚弱タイプともいう）のいずれであるかを判定する。

具体的には第3図及び第5図に示すように最初に熱寒テストを行う。この熱寒テストは第5図(a)にプログラム全体が示されており、まず表示装置13に「病気を思わせる顔色が出ているとすればどんな色か。1、赤色か黄色。2、病色はない。3、わからない。4、白色である。」という質問を表示する。この質問に対してキーボード14で



公開実用 昭和59— 93403

1 の番号が入力されれば被検者の体質を熱タイプと判定し、キーボード14 で4の番号が入力されれば被検者の体質を寒タイプと判定する。この質問で被検者の体質が熱タイプであるか寒タイプであるかが判定できなければ、つまりキーボード14 で2又は3の番号が入力されれば表示装置13 に「デパート程度の暖房や冷房を嫌がるか。1、冬に暖房を嫌がる。2、両方とも好き。3、わからない。4、両方とも嫌い。5、夏に冷房を嫌がる。」という次の質問を表示する。この質問に対してキーボード14 で1の番号が入力されれば被検者の体質を熱タイプと判定し、キーボード14 で5の番号が入力されれば被検者の体質を寒タイプと判定する。キーボード14 で2～4のいずれかの番号が入力されれば次の質問の表示に移り、以下被検者の体質が熱タイプであるか又は寒タイプであると判定するまでその判定に必要な予め定められた各質問の表示及びキーボード14 からの入力番号に応じた体質判断を同様に繰り返す。最後の質問は2者択一であり、被検者の体質が熱タイプで



あるか寒タイプであるかが必ず判定される。

熱寒テストの次には実虚テスト（第5図(b)にプログラム全体が示されている）を行うが、まず表示装置13に「ひどく疲れやすいか。1、そんなことはない。2、普通である。3、わからない。4、ひどく疲れる。」という質問を表示させる。この質問に対してキーボード14で4の番号が入力されれば被検者の体質が虚タイプであると判定し、キーボード14で1～3のいずれかの番号が入力されれば次の質問の表示に移る。被検者の体質が実タイプであるか虚タイプであるかと判定するまでその判定に必要な予め定められた各質問の表示及びキーボード14からの入力番号に応じた体質判断を同様に繰り返し、燥湿テストに移る。

上記2回の体質判定結果が熱実タイプ（熱タイプ且つ実タイプ）である場合第1の燥湿テストを行う。第1～第4の燥湿テストのプログラムは第5(c)～(f)には別々に示したが、実際には第3図に示すように第1及び第2の燥湿テストのプログラムの同じ部分が共通化され、第3及び第4の燥湿



公開実用 昭和 59— 93403

テストのプログラムの同じ部分が共通化されている。第 1 の燥湿テストではまず表示装置 13 に「病理検査において最低血圧が 100 以上になっているか。1、そんなことはない。2、一定しない。3、わからない。4、そうである。」という質問を表示させる。この質問に対してキーボード 14 で 4 の番号が入力されれば被検者の体質が湿タイプであると判定し、キーボード 14 で 1～3 のいずれかの番号が入力されれば次の質問の表示に移る。熱虚タイプの被検者が燥タイプであるか湿タイプであると判定するまでその判定に必要な予め定められた各質問の表示及びキーボード 14 からの入力番号に応じた体質判断を同様に繰り返す。

上記 2 回の体質判定結果が熱虚タイプ（熱タイプ且つ虚タイプ）である場合第 2 の燥湿テストを行う。この第 2 の燥湿テストは第 1 の燥湿テストと部分的に同じであり、熱虚タイプの被検者が燥タイプであるか又は湿タイプであると判定するまでその判定に必要な予め定められた各質問の表示及びキーボード 14 からの入力番号に応じた体質

判断を繰り返す。

上記体質判断の結果が寒実タイプ（寒タイプ且つ実タイプ）である場合は第3の燥湿テストを行う。この第3の燥湿テストでは寒実タイプの被検者が燥タイプ又は湿タイプであると判定するまでその判定に必要な予め定められた各質問の表示とキーボード14からの入力番号に応じた体質判断を同様に繰り返す。

上記体質判断の結果が寒虚タイプ（寒タイプ且つ虚タイプ）である場合は第4の燥湿テストを行う。この第4の燥湿テストは第3の燥湿テストと部分的に同じであり、寒虚タイプの被検者が燥タイプ又は湿タイプであると判定するまでその判定に必要な予め定められた各質問の表示とキーボード14からの入力番号に応じた体質判断を同様に繰り返す。

上記3回の体質判断により被検者の体質を燥熱実タイプ（熱実タイプ且つ燥タイプ）、湿熱実タイプ（熱実タイプ且つ湿タイプ）、燥熱虚タイプ（熱虚タイプ且つ燥タイプ）、湿熱虚タイプ（熱

公開実用 昭和59— 93403

虚タイプ且つ湿タイプ)、燥寒実タイプ(寒実タイプ且つ燥タイプ)、湿寒実タイプ(寒実タイプ且つ湿タイプ)、燥寒虚タイプ(寒虚タイプ且つ燥タイプ)、湿寒虚タイプ(寒虚タイプ且つ湿タイプ)のいずれかに判定し、それを一旦表示装置13に表示させる。次に被検者のコード、検査年月日、年齢、性別、問診の解答の過程を外部記憶装置16にファイルして外部記憶装置16をクローズし、所定の終了処理をして問診処理を終了する。

この実施例では中央処理装置11及びメモリ12で体質判定手段を構成しているが、ディスクリート回路で体質判定手段を構成してもよい。

以上のように本考案による体質判定装置にあっては入力情報から被検者の体質について熱タイプと寒タイプとの判別、実タイプと虚タイプとの判別、燥タイプと湿タイプとの判別を行なってその結果を出力するので、被検者の体質を簡単に細かく判定することが可能になり、薬局における薬品選定、医院での診断などに極めて有効である。

図面の簡単な説明

第 1 図は本考案の一実施例を示すブロック図、第 2 図は同実施例のプログラムを示すゼネラルフロー図、第 3 図は同プログラム中の問診処理ルーチンを示すフローチャート、第 4 図は同問診処理ルーチンの体質判定部分を概略的に示すフローチャート。第 5 図(a)~(f)は同体質判定部分の各テストを分離して示すフローチャートである。

11・・・中央処理装置、 12・・・メモリ、
13・・・表示装置、 14・・・キーボード、
15・・・プリンタ。

代 理 人 榊 山



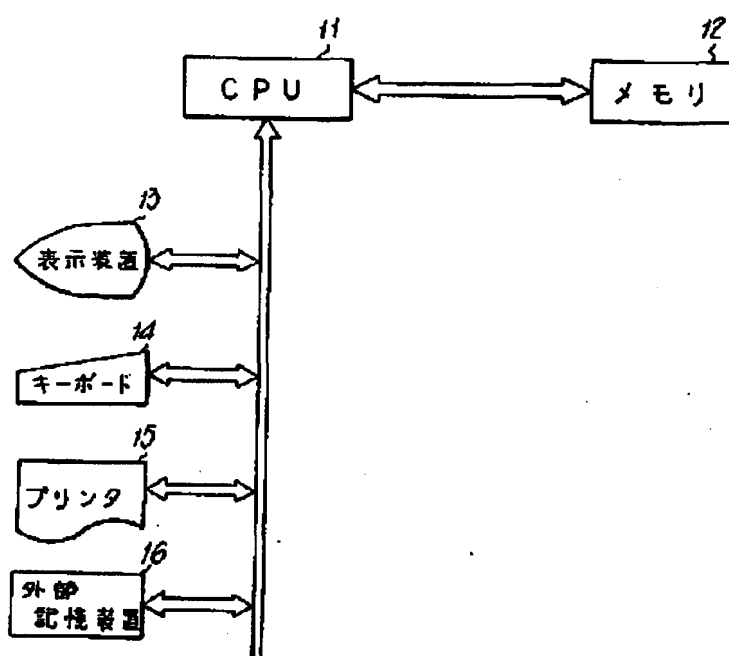
- 1 1 -



31

公開実用 昭和 59— 93403

第 1 図



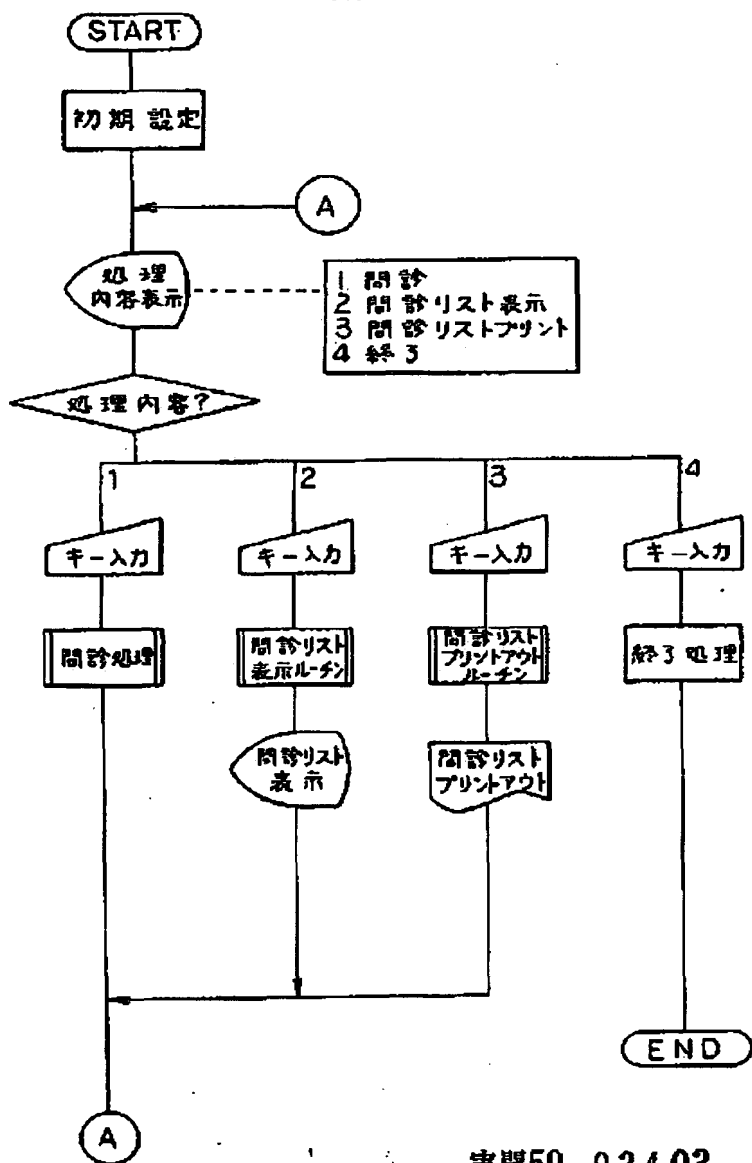
実開59-93403

代理人

325

棒山亨

第 2 図



33

実開59-93403

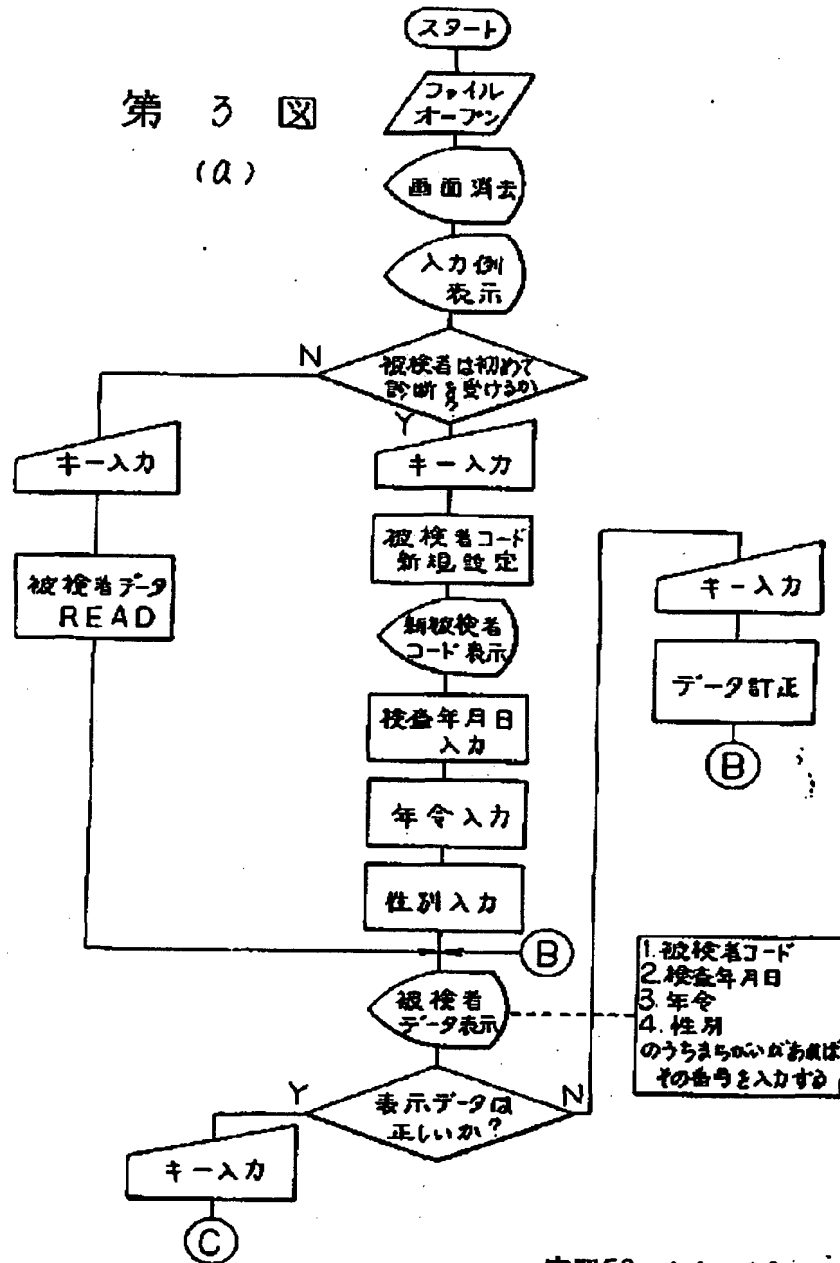
代理人

樺山亨

公開実用 昭和 59-93403

第 3 図

(A)



代理人

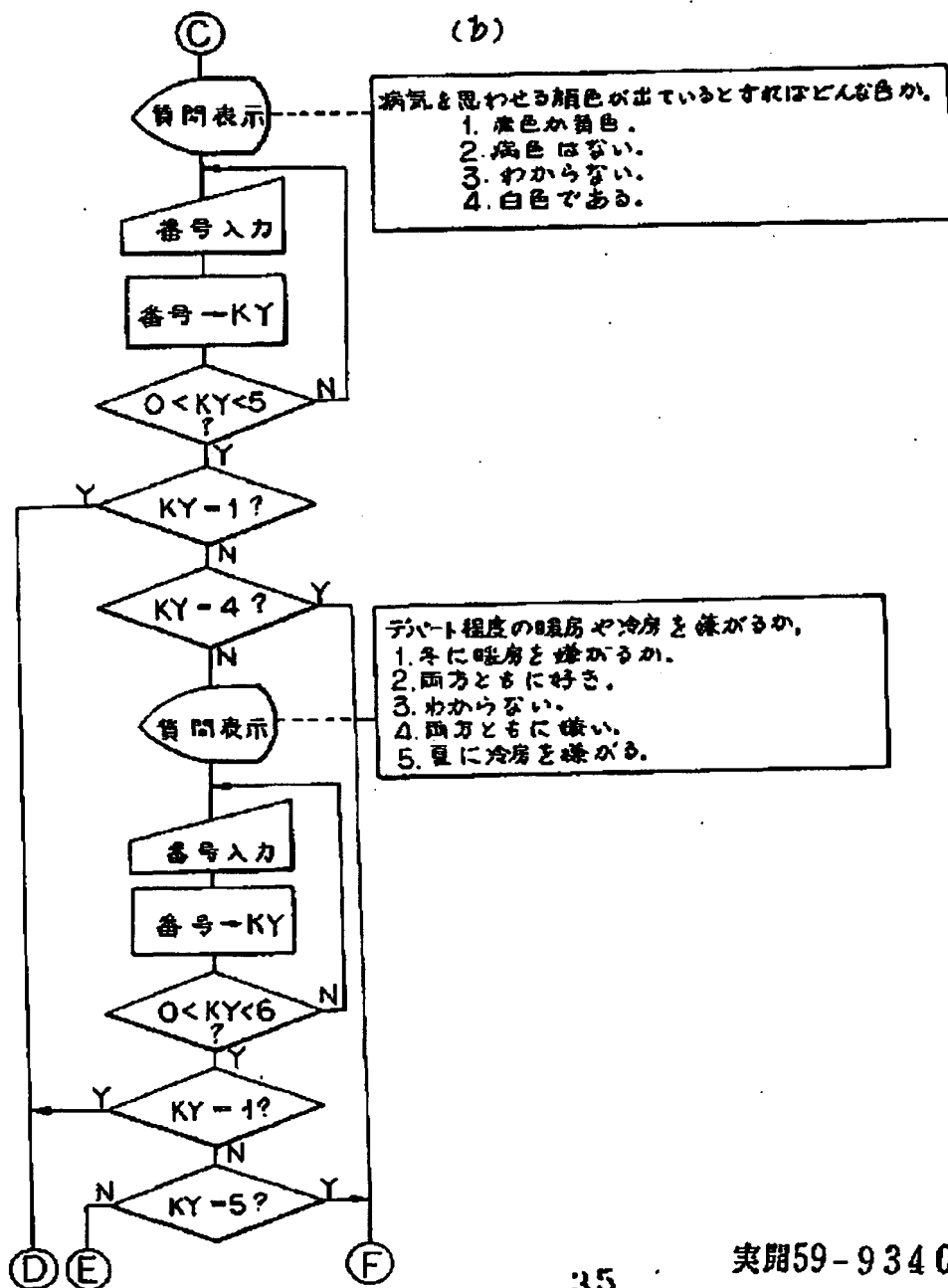
34

実開59-93403

横山

第 3 図

(b)



代理人

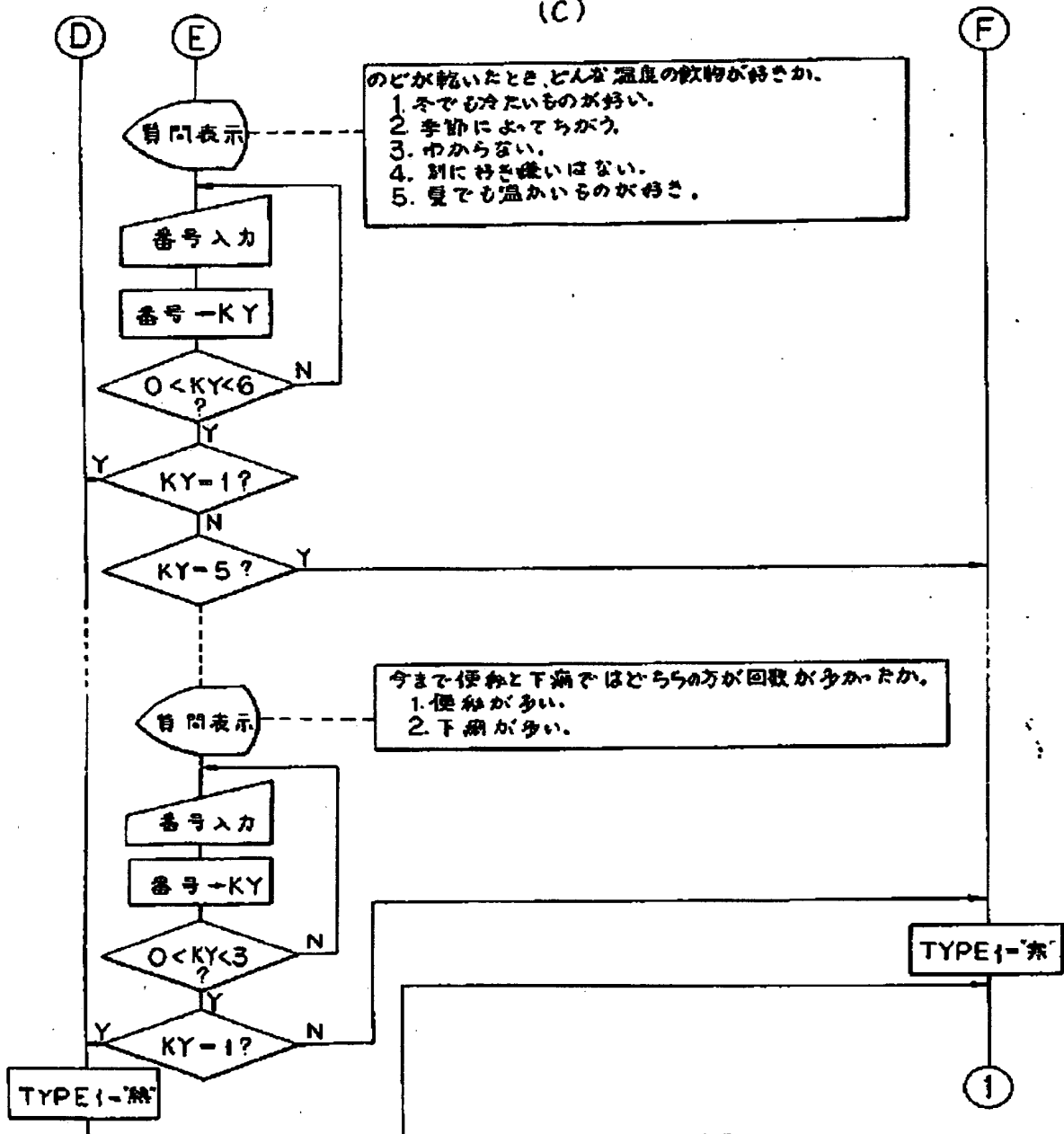
35

実開59-93403

樺山亨

公開実用 昭和 59— 93403

第 3 図
(C)

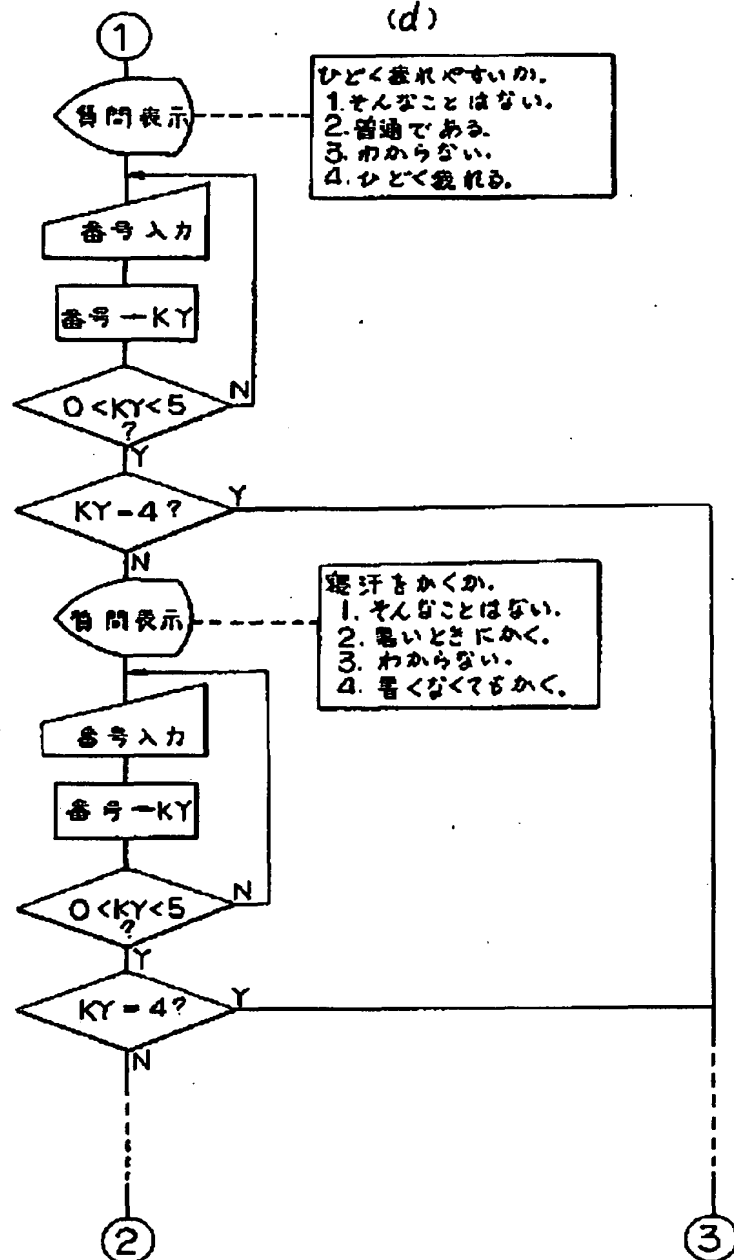


36 実開59-93403

代理人

嵯 山 亨

第 3 図
(d)



代理人

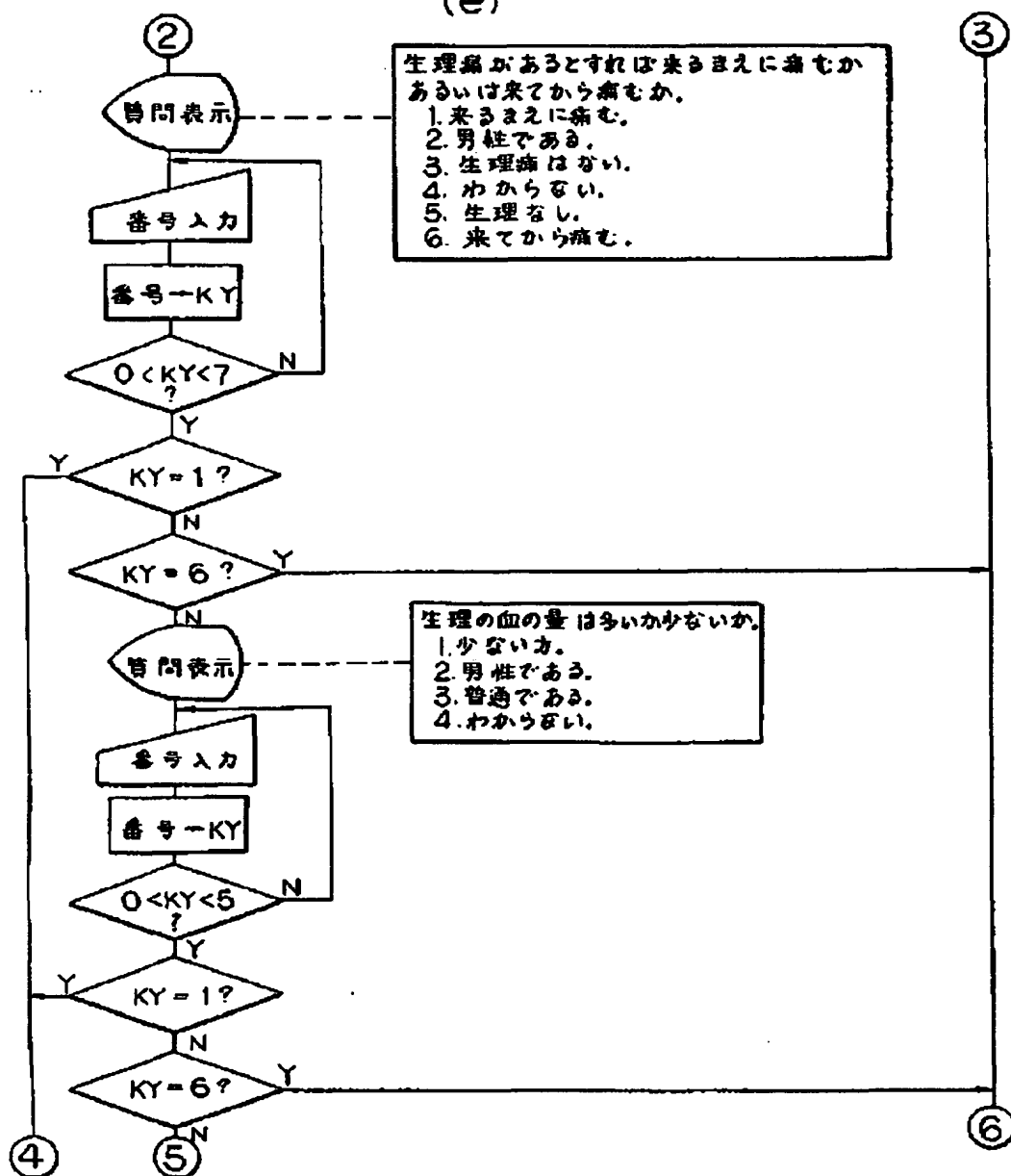
37

実開59-93403
榊山亨

公開実用 昭和59—93403

第 3 図

(e)



代理人

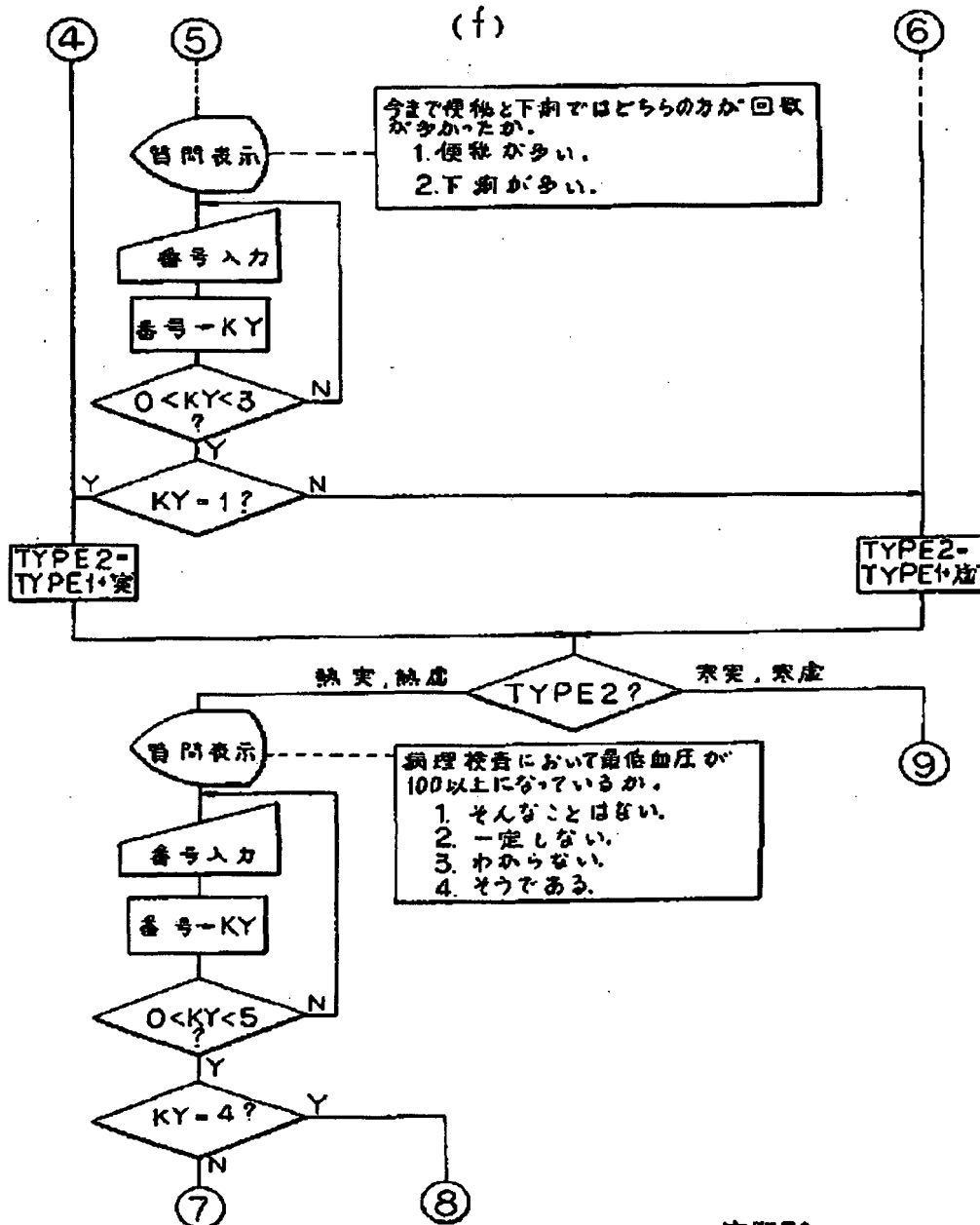
38

実開59-93403

樟山亭

第 3 図

(f)



39 実開59-93403

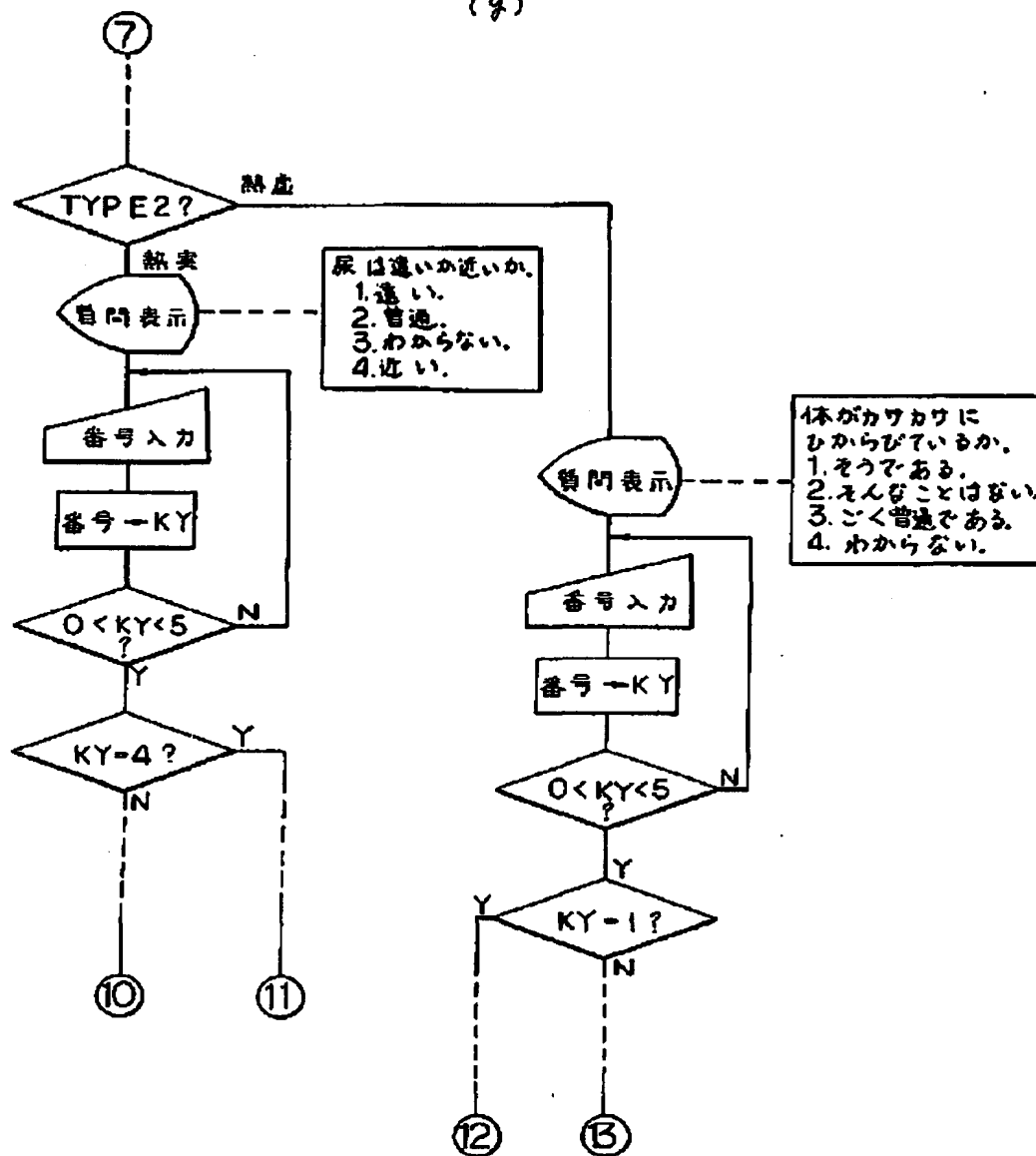
代理人

樺山亭

公開実用 昭和 59— 93403

第 3 図

(9)



代理人

稗山

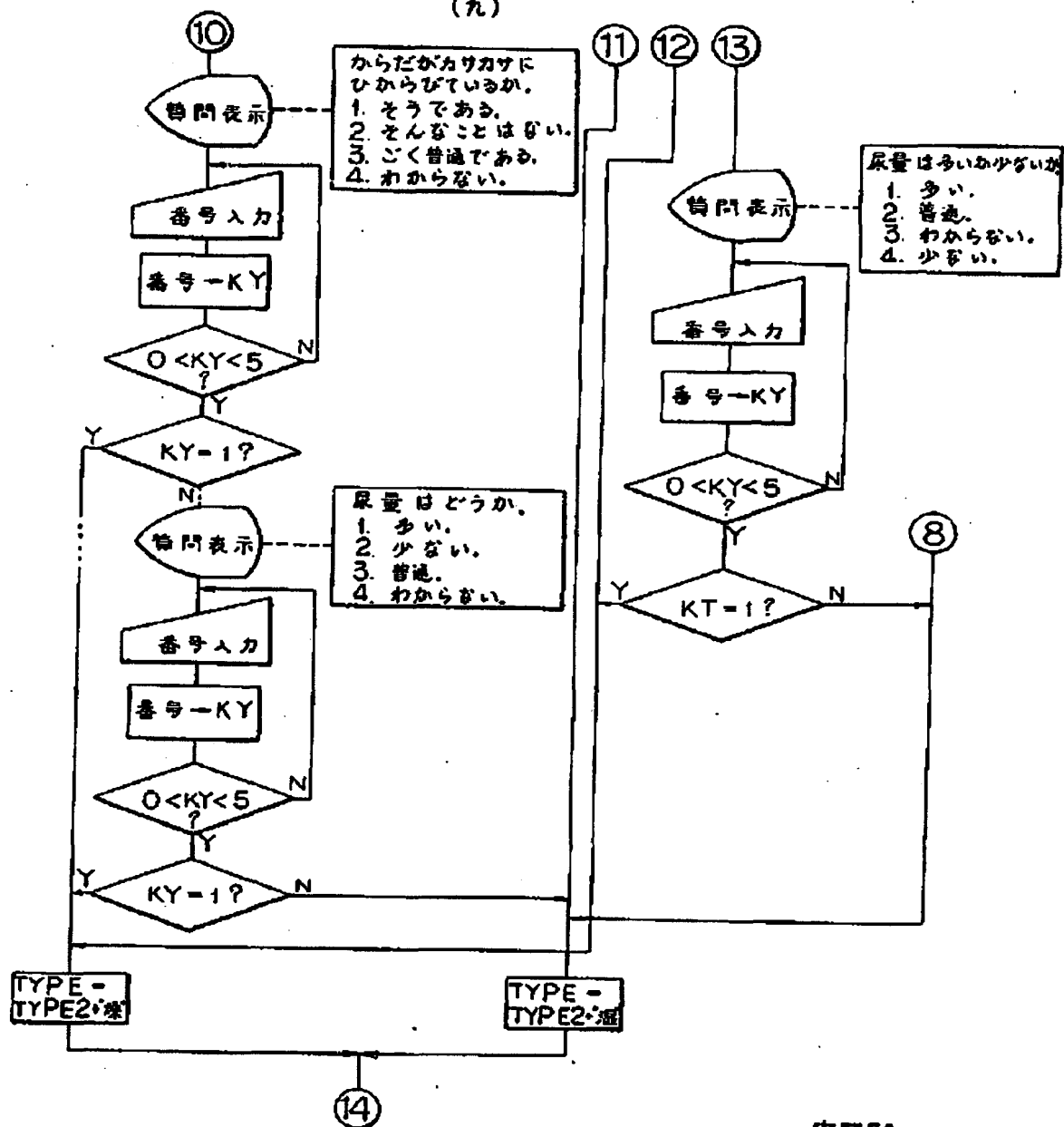
40

実開59-93403

亨

第 3 図

(九)



代 理 人

41

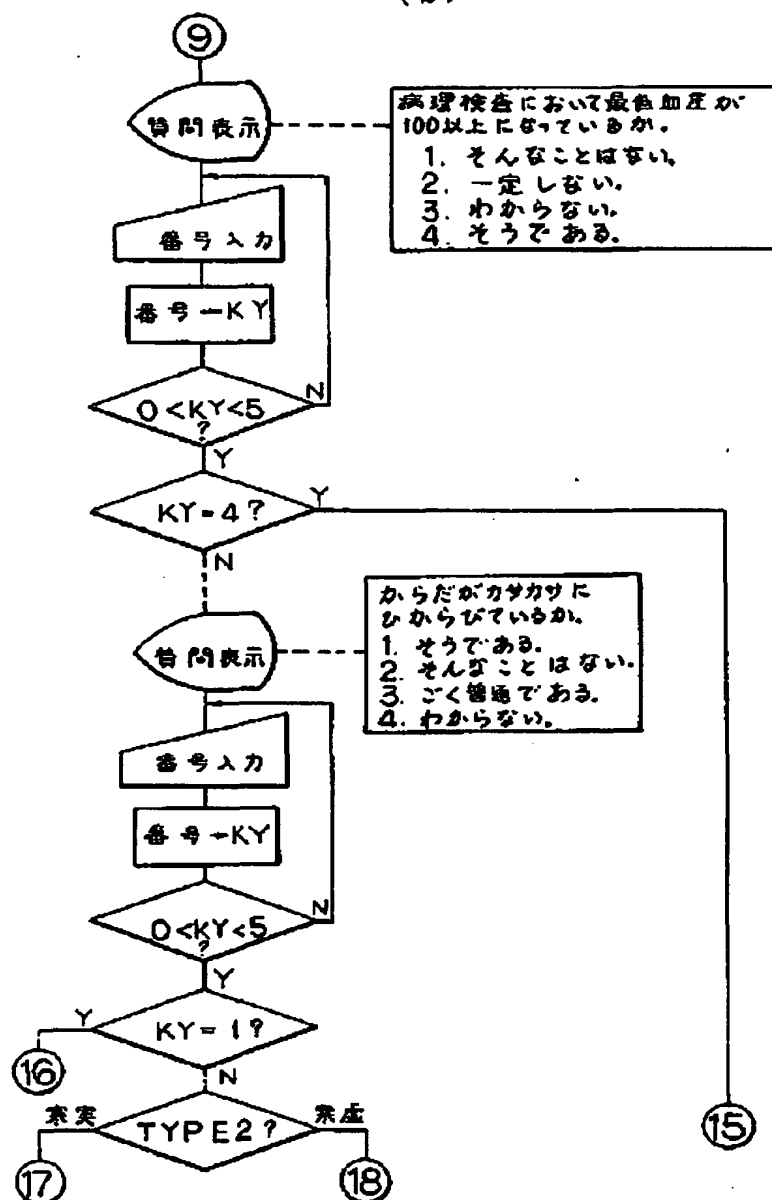
榊 山 亨

実開59-93403

公開実用 昭和59—93403

第 3 図

(1)

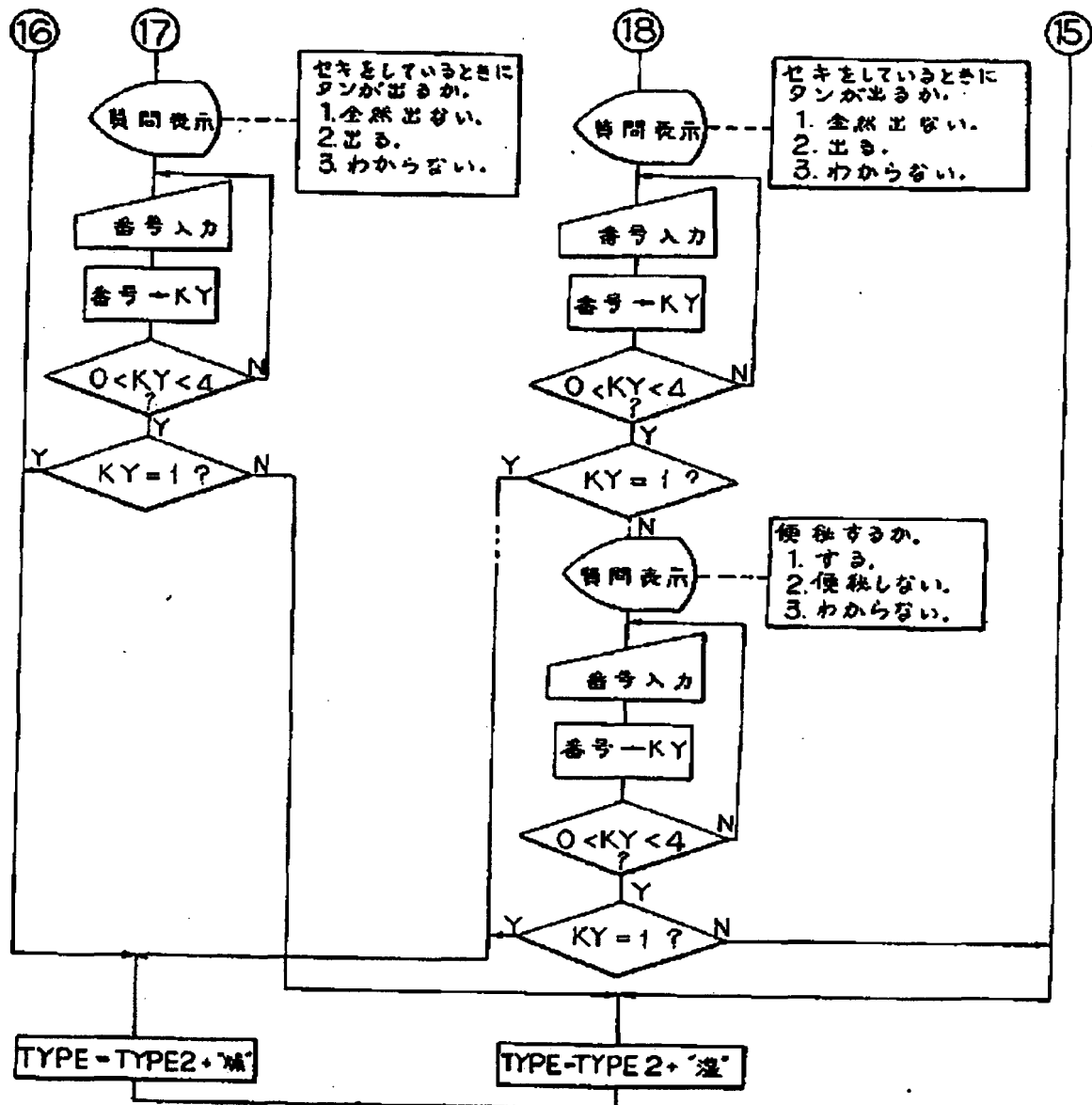


42 実開59-93403

代理人

榊山亭

第 3 図
(ホ)



14

43

実開59-93403

代理人

榊山亨

公開実用 昭和 59— 93403

第 3 図

(表)



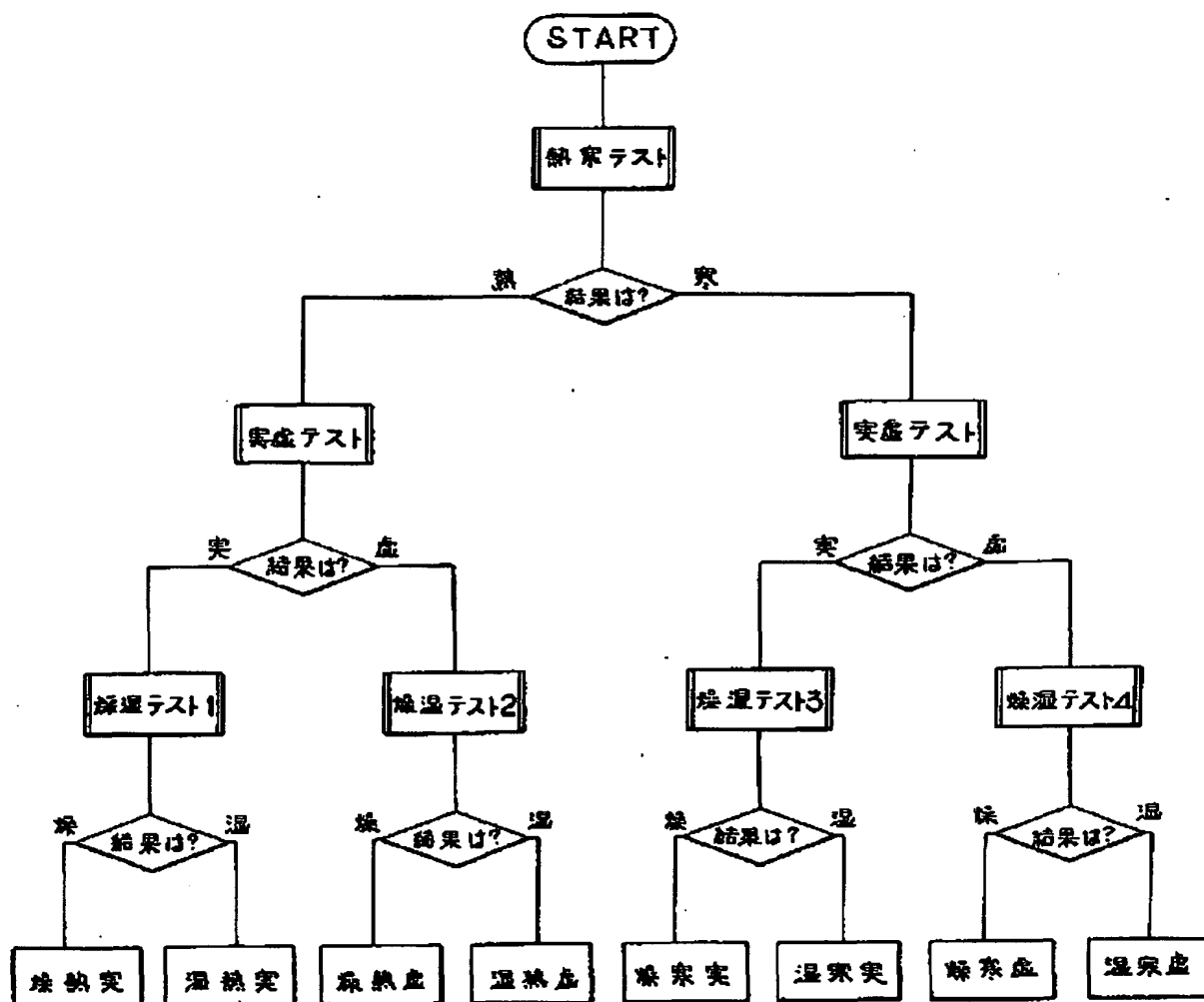
代理人

44

実開59-93403

榎山 亨

第 4 図



代理人

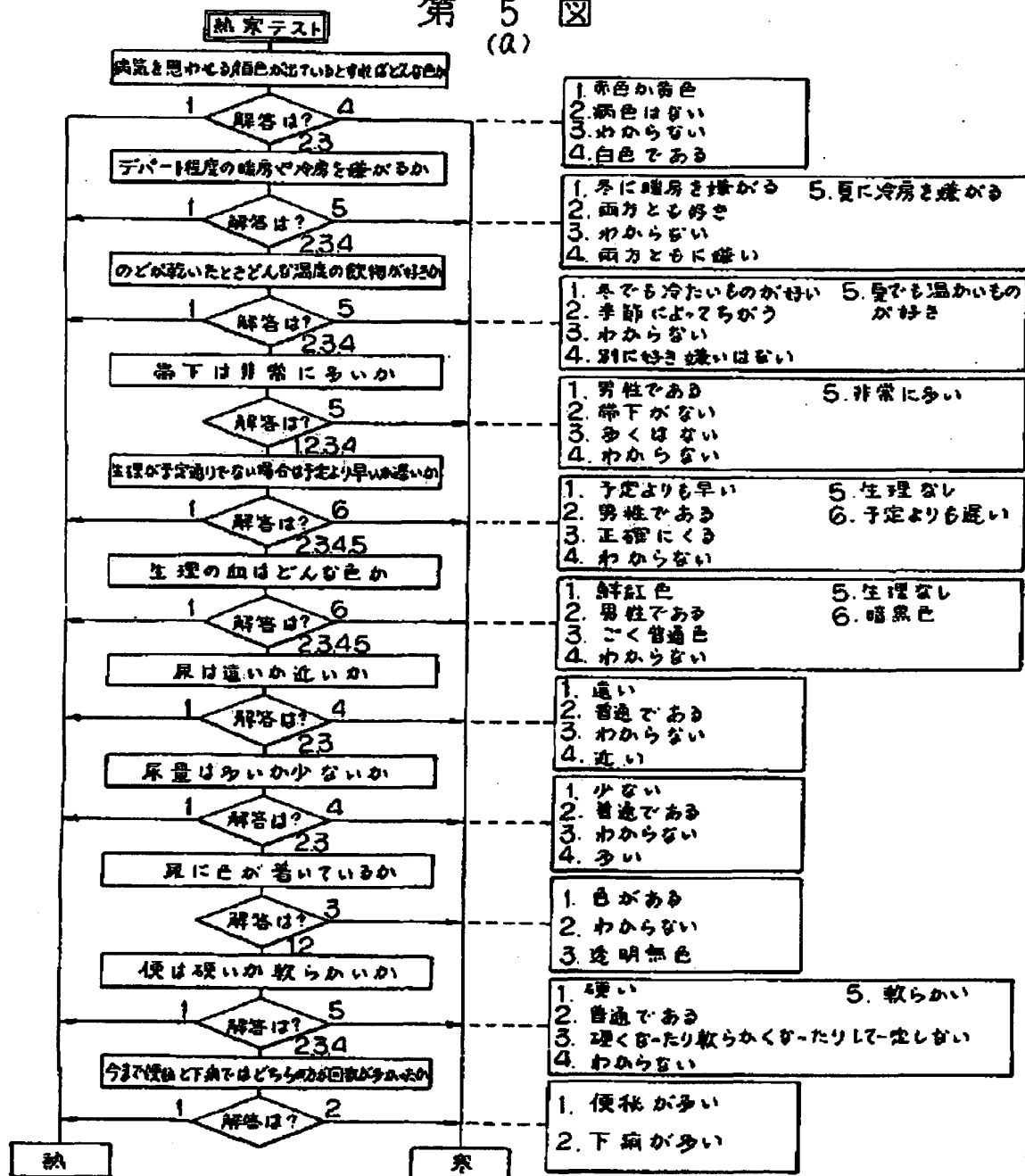
45

権山亨 実開59-93403

公開実用 昭和 59— 93403

第 5 図

(a)



代 理 人

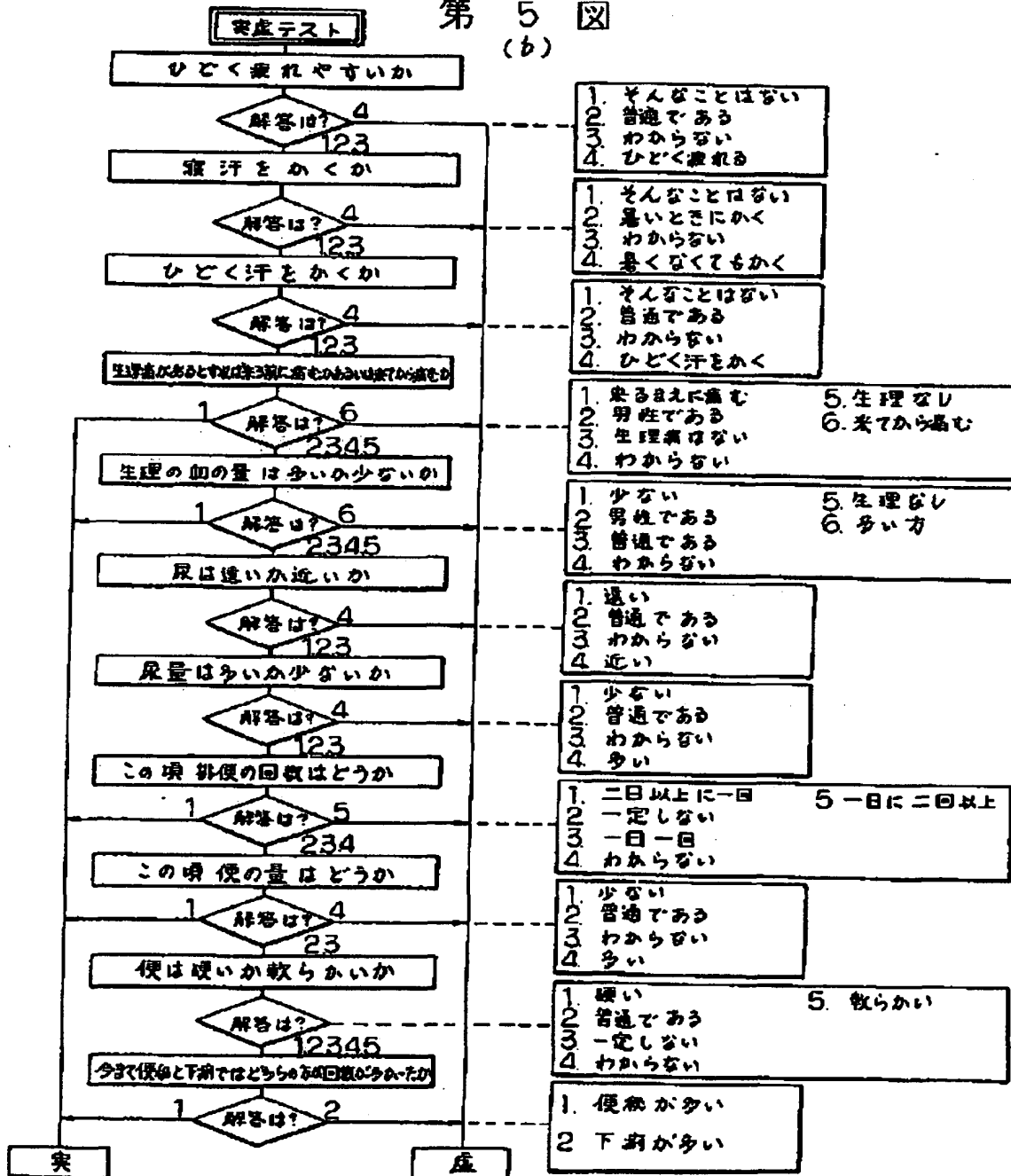
46

稗 山 亨

実開59-93403

第 5 図

(b)



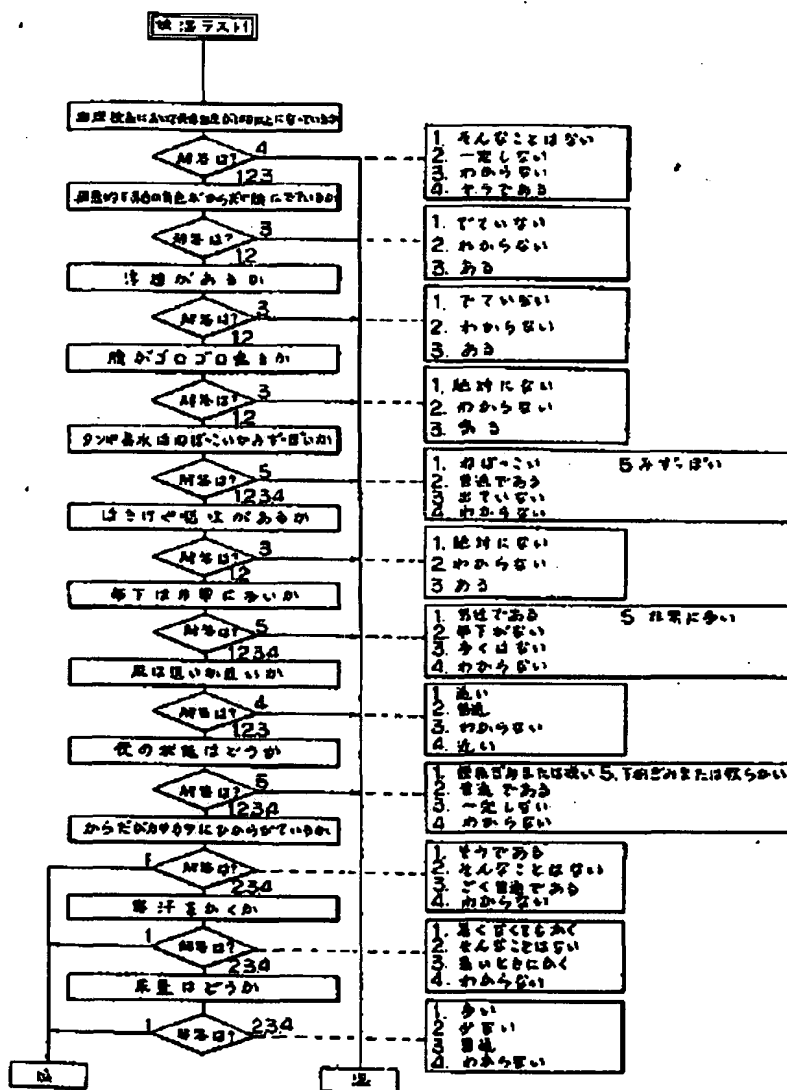
代理人

47

横山 亨

実開59-93403

公開実用 昭和59-93403



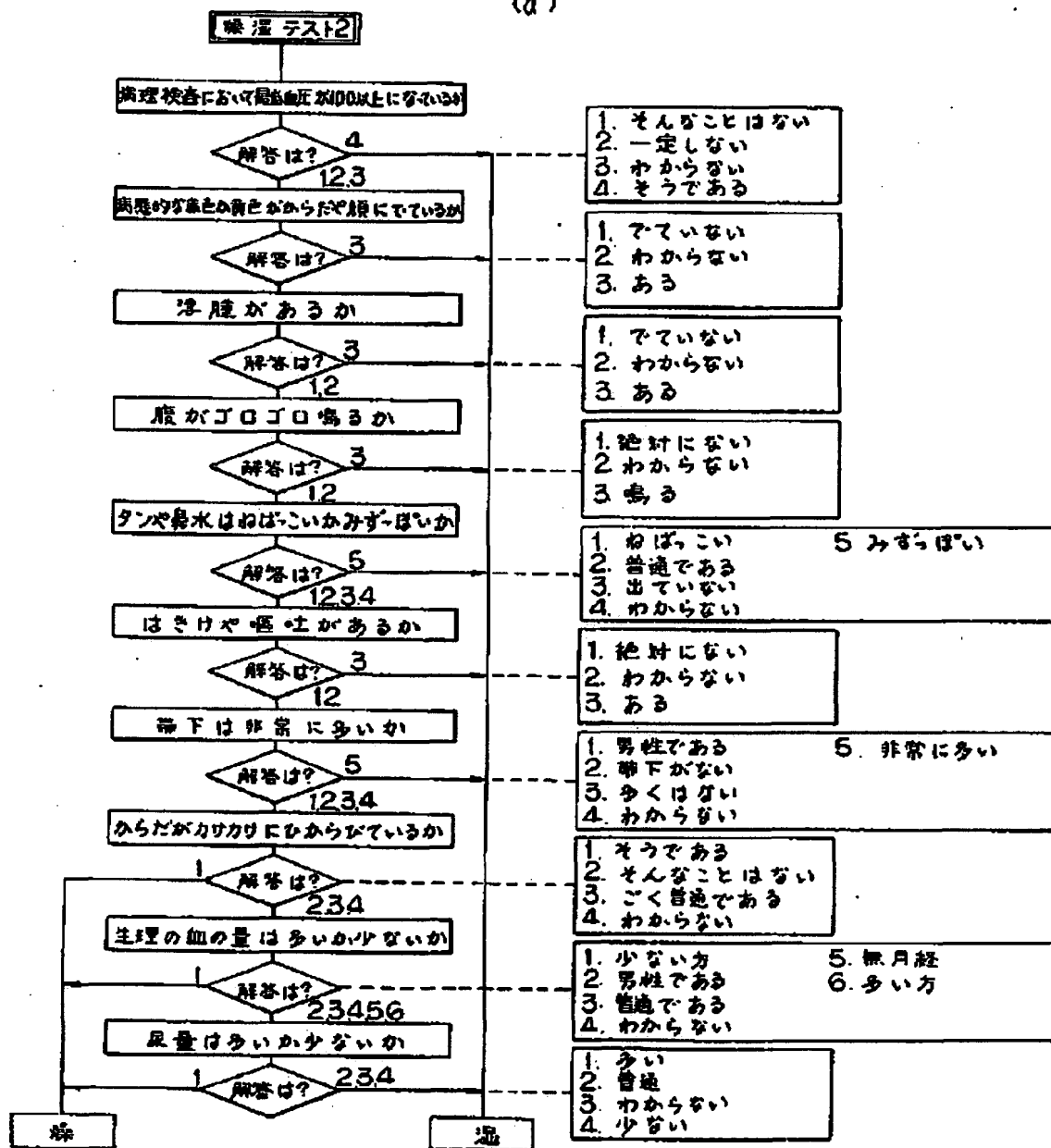
代理人

澤山 亨

実用59-93403

公開実用 昭和59-93403

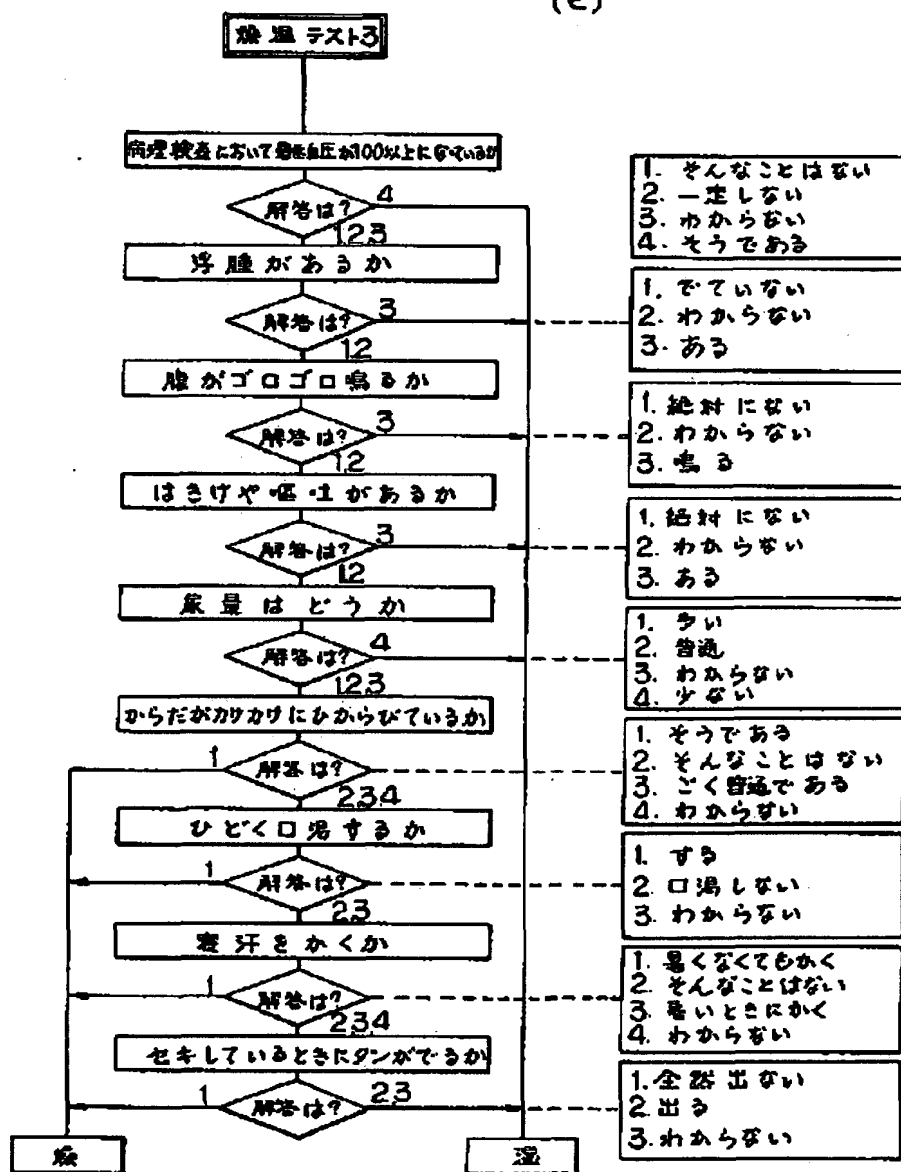
第 5 図
(d)



実開59-93403

代理人 49 榊 山 亨

第 5 図
(e)



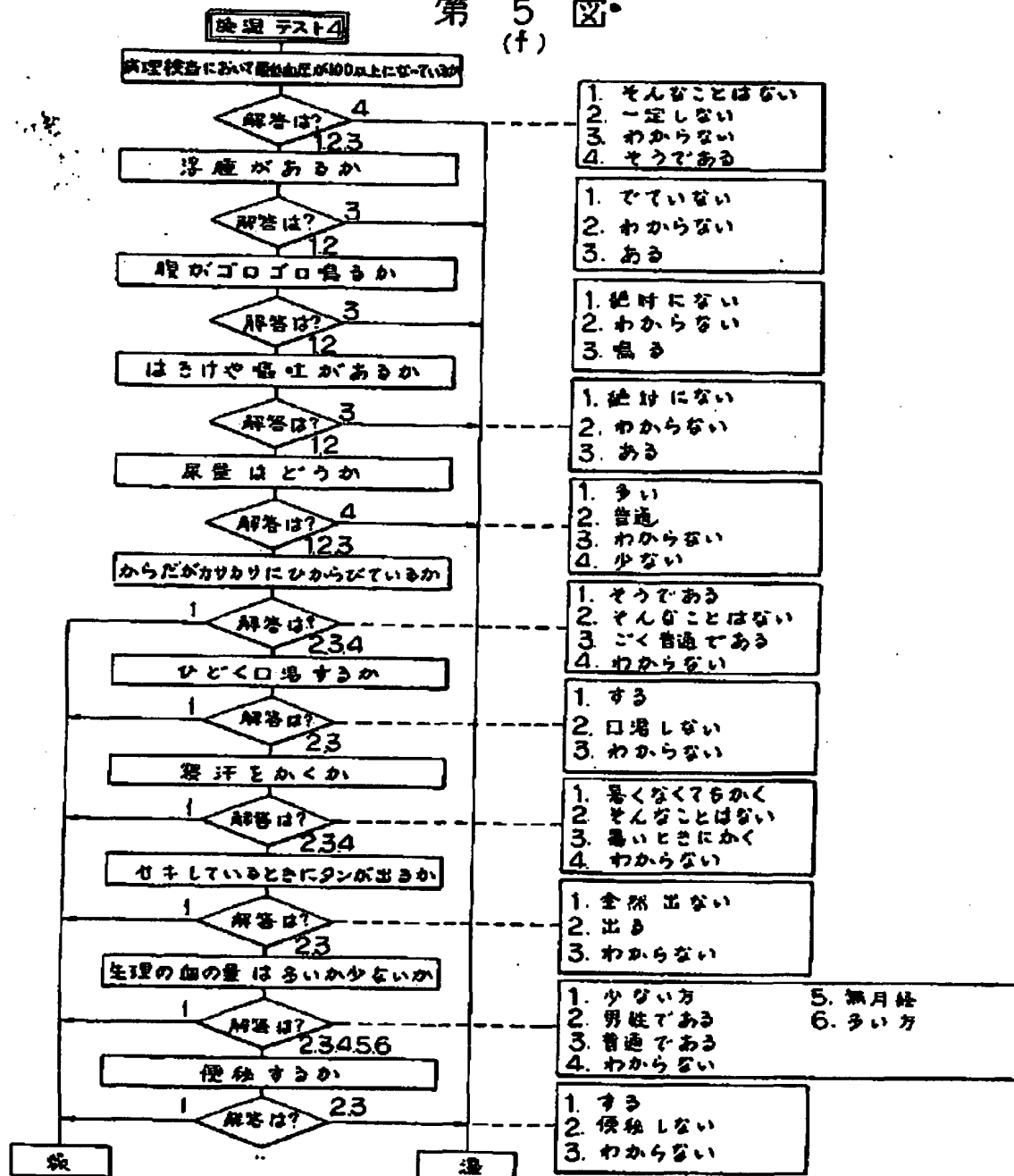
代理人

50

樺山 平

実開59-93403

公開実用 昭和 59— 93403

第 5 図
(+)

代理人

51 榊 山 亨

実開59-93403

公開実用 昭和 59 — 93403

手続補正書 (方式)

昭和 58 年 4 月 14 日

特許庁長官 若 杉 和 夫 殿
(特許庁審査官 殿)



1 事件の表示

昭和 57 年 実用新案登録 願 第 186108 号

2 考案の名称

体質判定装置

3 補正をする者

事件との関係 実用新案登録 出願人

名称 (氏名) ミクロン機器株式会社

4 代理人 〒156

住 所 経堂 4 丁目 5 番 4 号
東京都世田谷区横丘 9 丁目 6 番 28 号
電話 03 (428) 5106

氏 名 (6787) 樺 山 亨

5 補正命令の日付 昭和 58 年 3 月 2 日

6 補正の対象 明細書の「図面の簡単な説明」の欄及び図面



- 1 -

52

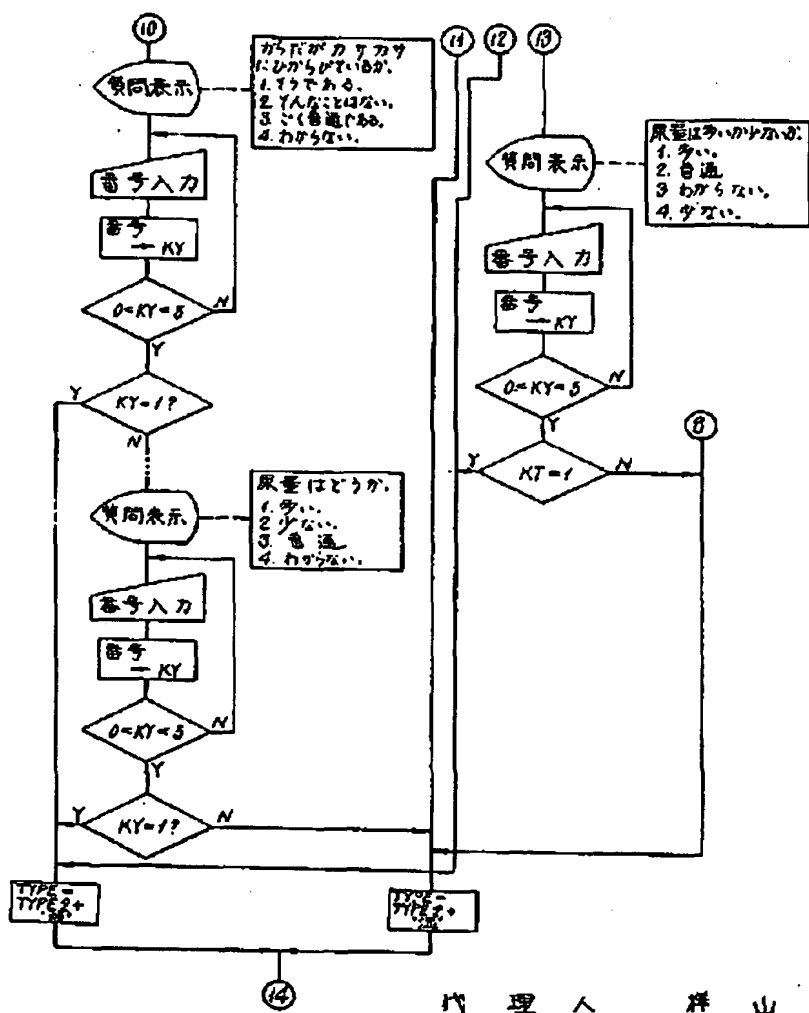
実開59-93403

7. 補正の内容

- (1) 明細書第11頁第7行の「(E)」を「(F)」に
訂正する。
- (2) 図面中第3図(ハ)を追加する。

公開実用 昭和59-1 93403

第 3 回
(人)



代理人 祥山 幸